

紀州東照宮の由緒

祭神

東照大神——徳川家康公
南龍大神——徳川頼宣公

南海道の総鎮護として元和七年（一六二一）御創建、和歌浦一に名所の権現様と
うたわれ当国随一の名勝として伝承されている。関西日光の名に相応しく左甚
五郎の彫刻や狩野・土佐両派の絵画等に荘嚴された極彩色に輝く社殿は桃山時代
の豪華な風姿を示す江戸初期の建築物として国の重要文化財に指定されている。
御鎮座式には勅使下向、慈眼大師天海大僧正が初代別当となり、以来約四百年
の歴史と伝統は「権現様」として親しまれている。東照大権現とは薬師瑠璃光如
来の神号で諸願一切成就・治病厄除開運の信仰深く全国よりの賽者は多い。
祭典としては、御創建以来伝承の「和歌祭」といわれる神輿渡御祭が毎年五月に
斎行され、和歌山市全域は祭一色となる。



紀州東照宮

和歌山県和歌山市和歌浦西二丁目
TEL(〇七三)四四四—〇八〇八